MEDICINOVA VOICE

株主通信 Vol.18
中間決算のご報告
（2015年1月1日～2015年6月30日）

Patients voice, Our choice.

笑顔のために…

みんなの笑顔をつくることができると、私共は信じています。

01 TOP MESSAGE
02 TOPICs
米国で公募増資を実施
フィデリティが主要株主に
03 SPECIAL EDITION
特集「MN-166の進捗と新たな可能性」
07 HIGHLIGHTS
主なハイライト／IR説明会ハイライト
08 MANAGEMENT TEAM
経営陣
09 FINANCIAL HIGHLIGHTS
財務ハイライト
10 CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS
財務諸表／株主メモ
11 PORTFOLIO／STOCK INFORMATION
開発ポートフォリオ／株式の状況

MEDICINOVA
メディシノバ

TOP MESSAGE

代表取締役社長兼CEO（最高経営責任者）
岩城 裕一

**病に苦しむ世界中の患者さんのために、
新薬を創り、届けること。
それがメディシノバの使命です。**

日本のすぐれた創薬技術をいかして、
安全で有効な新薬を世界へ届ける…
患者さんの笑顔をつくることが、私達の仕事です

会社理念

充分な治療法がまだ確立していない疾病を患う
世界中の患者さんに、よりよい治療を提供することにより
社会に貢献すること

基本経営方針

理念を具現すべく、こうした疾病の問題を改善する
医薬品の導入、開発、販売を手がける
グローバルな製薬会社を目指すこと

米国で公募増資を実施し、当面の開発資金を確保。払込完了後、米フィデリティが11.7%を保有する主要株主として登場。
進行型多発性硬化症（フェーズ2b）とアルコール依存症（フェーズ2a）の患者登録が完了。

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

前回の株主通信vol.17以降のトピックは、8月に米国において公募増資を実施し、今後3年間の開発資金の一部を確保することができました。本公募増資には、米国の機関投資家が複数参加し、払込完了後、世界最大級の投資信託会社の1社であるFidelity Management and Research LLC（FMR LLC）が大量保有報告書を提出し、株式保有割合11.73%の主要株主となったことが確認できました。

また、主要プログラムに関しても、多くの進展がありました。

MN-166に関しては、6月にFDAからクラッベ病（主として小児に発症する、非常にまれな遺伝性の神経変性疾患で、現在のところ根治療法はなく、通常2歳までに死に至るといわれる難病）適応に対するオーファンドラッグ指定を受けました。同じく6月に進行型多発性硬化症フェーズ2b臨床治験の患者登録が完了し、患者が実薬またはプラセボ群のどちらかに割り当てられる無作為化が完了したことを報告させていただき、7月にはアルコール依存症フェーズ2a臨床治験の患者登録が完了したことを報告させていただきました。

MN-001に関しましては、7月にNASH（非アルコール性脂肪性肝炎）適応の新たな臨床治験プロトコルがFDA から承認されました。本プロトコルは、高中性脂肪血症を伴うNASH患者を対象にしており、NASH患者の最大の死亡リスクである心血管系疾患リスクへの効果を評価する内容です。9月にはFDAからIPF（特発性肺線維症）適応のファストトラック（優先承認審査制度）指定を受けました。IPFについては昨年10月にFDAからオーファンドラッグ指定を受けており、ファストトラック指定と併せ、今後の開発進展が期待されます。

今後も、株主の皆様のご期待に応えられるよう社員一同、臨床開発、導出活動に邁進する所存でございます。株主の皆様には、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年10月

米国での公募増資

により開発および一般事業に充当する資金を調達しました

メディシノバは、このたび、米国において公募増資を実施しました。2015年8月18日付で米国証券取引委員会に提出された仮発行登録追補書類に基づき、米国の機関投資家を主な対象として募集が行われました。調達した資金は、今後3年間におけるMN-166、MN-001を中心としたパイプラインの開発及び一般事業目的で使用する資金の一部に充当する予定です。

公募による新株式発行の詳細

●払込期日(受渡期日):	2015年8月24日(月)(米国東部夏時間)
●目的たる株式の種類及び数:	当社普通株式5,000,000株
●払込金額の総額:	16,275,000米ドル(19億8,099万円相当) (1株につき 3.255米ドル(396円相当))
●増加する資本金の額:	5,000米ドル(61万円相当)
●増加する払込剰余金の額:	16,270,000米ドル(19億8,038万円相当)

注)米ドルの日本円への換算は、1米ドル=121.72円の換算率(2015年8月24日現在の(株)三菱東京UFJ銀行が公表した対顧客電信直物相場の仲値)に基づく値を便宜上記載しております。

TOPICs

フィデリティが主要株主

となったことを大量保有報告書が提出されたことで確認しました

2015年8月31日付で、米国の投資顧問会社「エフエムアール エルエルシー(FMR LLC)」から大量保有報告書が関東財務局長に提出されたことにより、主要株主の異動を確認。これに伴い同社はメディシノバの主要株主となりました。異動後の議決権の数(所有株式数)は3,507,800個(3,507,800株)、株主の議決権の数に対する割合は11.73%となっています。

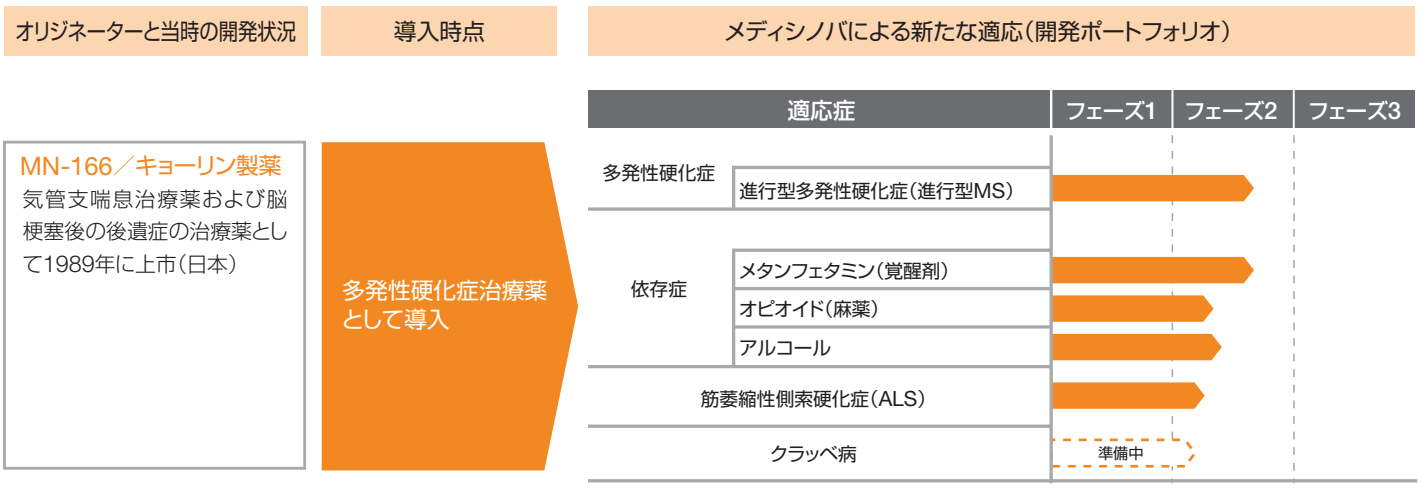
FMR LLCは世界有数の規模と歴史を持つ独立系資産運用グループであるフィデリティの中核企業で、高い信頼と実績を誇ります。日本ではフィデリティ投信が窓口となっています。

※総株主の議決権の数に対する割合は、平成27年8月24日現在の総株主の議決権の数 29,893,221個を基準に算出しています。
※フィデリティ投信株式会社より提出された大量保有報告書に基づき記載しています。

特集「MN-166の進捗と新たな可能性」

メディシノバは主要パイプラインのMN-166について、乳児の死亡率が高い難病「クラッベ病」を適応症とした新たな開発に着手。すでにFDAよりオーファンドラッグの指定を受けました。MN-166はまた、進行型多発性硬化症を適応とするフェーズ2bの臨床治験における患者登録、アルコール依存症を適応とするフェーズ2a臨床治験の患者登録がそれぞれ完了するなど進捗しています。今号はMN-166のこうした情報を特集します。

■メディシノバの強みとMN-166



深刻な神経変性疾患「クラッベ病」への挑戦

メディシノバの強みは、薬の導入時点とは異なる適応を見つけ、可能性を広げることにあります。MN-166も初めは、多発性硬化症の治療薬候補としてキョーリン製薬からライセンス導入したものです。その後、神経変性疾患および薬物、嗜好品の依存症に対する効果の可能性に着目。進行型多発性硬化症、メタンフェタミン依存症、オピオイド依存症、アルコール依存症、最近ではALS（筋萎縮性側索硬化症）の治療薬として開発を進めてきました。

このたびMN-166の新たな適応症として神経変性疾患「クラッベ病」を加え、2015年6月、FDAよりオーファンドラッグ（希少疾患治療薬）の指定を受けました。この指定を受けると、7年間の排他的先発販売権が与えられるほか、米国政府からの補助金が得られたり、治験実施計画書の審査に対しての優遇措置が受けられます。

クラッベ病は、米国で10万人に対し1例しかない非常にまれな遺伝性の神経変性疾患で、主として小児に発症し、その場合、通常2歳までに死に至ると言われる難病です。現在のところ根治療法はなく、唯一の治療法として造血幹細胞移植がありますが、さまざまな危険を伴い、効果も限定的と考えられています。

MN-166はニーズが満たされていない中枢神経系疾患への効果が期待されており、すでにフェーズ2治験を実施中の進行型多発性硬化症、ALS（筋萎縮性側索硬化症）とともに、クラッベ病もこの領域に該当します。メディシノバは、こうした難病に有効な治療薬の開発に注力していきます。（p11ご参照）

●クラッベ病とは

- 発症時期によって早期乳児型・晩期乳児型・若年発症型・成人発症型の4タイプに分類され、約9割が生後6カ月以内に発症する早期乳児型
- 初期症状は、易刺激性（些細な事で過度に号泣するなど）、手足のけいれん、神経反射の欠如、筋力の低下、授乳困難、感染の兆候のない発熱、姿勢のこわばり、神経認知機能の発達の遅れ・退行など
- 病気の進行とともに筋力が衰え、幼児期には移動や咀嚼、嚥下および呼吸まで困難になる。その後視力を失い、急速に除脳硬直を示し、多くは2歳までに死亡
- 約1割の患者が早期乳児期以降に発症。退行の進行が早期発症型に比較して緩やかで、早期乳児期発症型に比べ長く生きられる可能性がある

米国の優れた医薬品開発環境①

治療薬の優先審査を可能にするバウチャーの存在

米国のFDAは、医薬品承認審査を早める「優先審査バウチャー」を発行し、審査期間を10カ月から6カ月へと短縮する制度を設けています。開発コストに比べて売上高があまり見込まれないような希少疾病などの治療薬の開発を促進するためで、バウチャーは売買することができ、購入した企業はそれをあらゆる治療薬の審査にあたり利用できます。条件を満たせば、メディシノバもこの制度を利用可能であると考えています。

今年6月、仏製薬大手サノフィがこのバウチャーを米バイオテクノロジー企業のRetrophinから2億4,500万ドルで購入したと発表されました。サノフィ社が利用するであろうと見られている医薬品でバウチャーを使うと、競合他社の薬剤の米国販売開始より数カ月先に販売することが可能とされ、この時間差がサノフィ社に大きな収入をもたらすだろうと言われています。

進行型多発性硬化症適応のフェーズ2b臨床治験の患者登録が完了

2015年5月、進行型多発性硬化症を適応とするMN-166のフェーズ2b臨床治験に関して、患者登録が完了しました。同年6月には、255名の患者の無作為化（患者が、実薬またはプラセボ群※のどちらかに割り当てられること）も完了。本治験を実施している米国国立神経疾患脳卒中研究所（NINDS）は、登録患者の半数が96週の治療期間を完了した時点で効果に関する中間解析を行う予定で、時期は2016年秋ごろの見込みです。

※有効成分を含まない薬を服用した際、薬を飲んだと思うだけで心理的作用が働き、効果を現すことがあり、これを『プラセボ効果』と言います。プラセボを用いた治験（プラセボ対照試験）は、治験薬の有効性を科学的に明らかにするために必要で、プラセボと比べて効果があった場合に初めて薬の効果があったということができます。

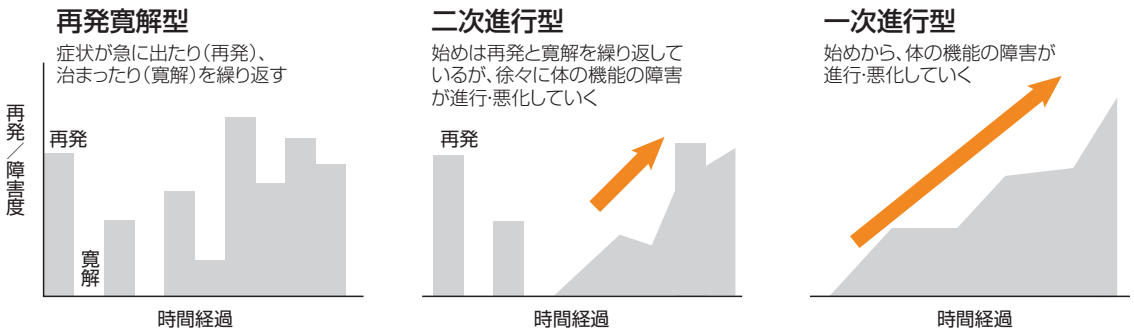
●フェーズ2b臨床治験の概要

- 米国全土28カ所の臨床施設で実施
- 一次進行型または二次進行型多発性硬化症患者が対象
- MN-166またはプラセボを1日2回投与し、MN-166の安全性、認容性および有効性をプラセボと比較し評価

●多発性硬化症について

- 脳や脊髄、視神経に病巣ができ、さまざまな症状が現れる病気。多くの場合、「再発」と「寛解」（症状が落ち着いて安定した状態）を繰り返す。厚生労働省で難病に指定
- 全世界の患者数は約250万人。そのうち約85%は最初の診断で再発寛解型と診断され、その半数の患者が時間の経過とともに寛解期がないか、または非常にまれに健康状態が徐々に悪化する二次進行型多発性硬化症へ進行し、歩行、視覚、知力など身体機能の障害症状を起こす
- 約10%の患者は発病時に一次進行型と診断され、再発や寛解を経ることなく、二次進行型と同様の症状に進む

■症状の経過　3つのタイプ



臨床治験の体制―共同プロジェクトについて

進行型多発性硬化症を適応とする臨床治験は、NeuroNEXT、クリーブランド・クリニック、米国多発性硬化症協会及びメディシノバの参加で行われる共同プロジェクトです。それぞれの役割は右記の通りです。

なお、Neuro NEXTは米国立衛生研究所（NIH）の支部である国立神経疾患脳卒中研究所（NINDS）傘下の臨床治験ネットワークで、学術会、民間財団及び医薬業界と提携して神経疾患治療を目的とする研究を行うために設立されました。Neuro NEXTの治験参加施設には、米国内の有数の大学関連医療施設が含まれています。

Neuro NEXT

- フェーズ2臨床治験において有望な神経療法をテストする
- 臨床治験に関して実績があるインフラを用いることで、神経疾患領域での医薬品の開発における時間/コストの最適化を図る
- NINDSの持つ学術研究者または患者支援団体とのコネクションを活用して、官民の開発努力の調整を図る　など

クリーブランド・クリニック

- NeuroNEXTネットワークに参加する大学病院の医師・研究者らと共同で研究を行う

米国多発性硬化症協会

- 本治験の公示、患者への治験参加呼びかけなどの協力

メディシノバ

- MN-166に関する科学データ、分析面のサポートおよび医薬品とプラセボを供給

米国の優れた医薬品開発環境②

米国を手本に日本版NIHが発足―その違いは?

米国国立衛生研究所（NIH）は医療や生命科学分野の研究費を統括する政府機関で、米国で最も古く権威ある医学研究の拠点です。グローバルに研究者を助成しており、年間予算額はおよそ300億ドル（約3兆6,000億円）に達します。

メディシノバはNIH グループからMN-166に関して助成金を得ており、進行型多発性硬化症を適応とするフェーズ2臨床治験に対しては、Neuro NEXTから11.3百万ドル（約13億円）の治験研究費供与を受けています。

このNIHをモデルに2015年4月、日本医療研究開発機構が設立されました。これまで文部科学省、厚生労働省、経済産業省に分かれていた研究開発行政を一元化した、政府の医療研究の司令塔です。2015年度の医療分野の研究開発予算は計25事業に145億円。難病の研究事業へ14億円を支出し、医薬品の開発支援（10億円）や医療機器やシステムの開発（9億円）にも配分されます。

地理的規模の違う日米を単純比較できませんが、米国の先進性を物語るデータと言えそうです。

■MN-166の開発状況と助成金

進行型多発性硬化症 NeuroNEXT/クリーブランド・クリニック	フェーズ2b／国立神経疾患脳卒中研究所（NINDS）からの助成金
メタンフェタミン（覚醒剤）依存症 UCLA	フェーズ2／国立薬物濫用研究所（NIDA）からの助成金
オピオイド（ヘロイン、処方鎮痛剤）依存症 コロンビア大学	フェーズ2／国立薬物濫用研究所（NIDA）からの助成金
アルコール依存症 UCLA	フェーズ2／アルコール濫用/アルコール依存症研究所（NIAAA）からの助成金

■年間予算額の比較

3.6兆円

1,400億円

アルコール依存症を適応とするフェーズ2a臨床治験の患者登録が完了

2015年6月30日、現在 UCLAで実施中のアルコール依存症患者を対象とするMN-166のフェーズ2a臨床治験に関して、目標患者数24名の患者登録が完了しました。

本治験は、プラセボを対照とする無作為二重盲検比較により、UCLAの治験施設において、治療下にないアルコール濫用/依存症患者を対象に行います。主な目的は、安全性、認容性および、管理されたコンディションのもとでMN-166の投与がアルコールへの渇欲を緩和できるかどうかを評価することです。

治験に参加する患者は、MN-166またはプラセボを投与する群に無作為に振り分けられ、合計7日間、プラセボまたはMN-166を100mg/日まで増量という治療プロトコルを受けます。治験期間中は、治験薬の投与を受けながらアルコールの点滴を受け、その後アルコールに対する渇欲度のテスト、心理状態の評価および標準的な安全性評価を行います。さらに7～10日間の「休養」期間をおいて再び7日間の投薬期間に入り、この際にはクロスオーバー・デザインで、最初の7日間に投薬されたものとは別の治療を受けます。

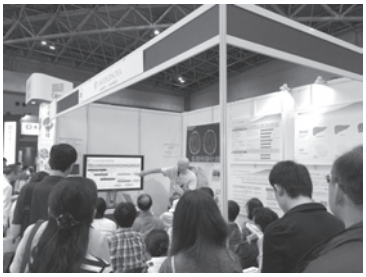
ALSを適応とする臨床治験で、最初の進行ALS患者が登録

MN-166のALS（筋萎縮性側索硬化症）を適応とするフェーズ2臨床治験に関して、NIV（非侵襲的換気補助器）※のサポートを受ける進行ALS患者を対象患者に含む治験対象患者基準の拡大および、登録患者数の増加などを含む修正プロトコルが、FDAからの承認を受け、この修正プロトコルに基づき、最初の進行ALS患者が登録されました。

今回のプロトコル修正によって、NIVのサポートを受ける進行ALS患者60名を新たに加えて患者登録することが承認されました。

※NIVは呼吸補助機器の一種で、非侵襲的換気補助器と呼ばれます。「非侵襲的」とは、身体に傷をつけたり管を入れたりしないという意味で、気管内挿管や気管切開と違い、通常NIVでは鼻にマスクをつけて呼吸を補助します。

HIGHLIGHTS
ハイライト

主なハイライト	2015年	IR説明会ハイライト
• MN-001のNASH（非アルコール性脂肪性肝炎）を適応とするIND申請に対するFDAの承認通知受領を発表 • MN-029に対する細胞増殖性疾患治療を適応とする特許（日本）承認を発表	1月	• SMBC日興証券新潟支店個人投資家向け説明会（新潟）
• MN-001のNASHを適応とする特許（米国）承認を発表 • MN-001のIPF（特発性肺線維症）を適応とするフェーズ2臨床治験に対するFDAの承認通知受領を発表 • MN-166のALS（筋萎縮性側索硬化症）を適応とするフェーズ2臨床治験の患者登録状況を発表	2月	• モーニングスター主催個人投資家向けIR説明会（福岡） • SMBC日興証券大阪支店個人投資家向け説明会（大阪） • 大和証券金沢支店個人投資家向け説明会（金沢） • モーニングスター主催個人投資家向けIR説明会（金沢） • ラジオNIKKEI主催「IR&負けない株式投資セミナー」（東京） • モーニングスター主催個人投資家向けIR説明会（仙台）
	3月	• 通期決算説明会（東京）
• MN-001の肝線維化を認めるNASH適応に対するFDAのファストトラック指定承認を発表 • MN-166のALSを適応とするフェーズ2臨床治験の安全性に関する中間解析結果を発表	4月	• SMBC日興証券西宮支店個人投資家向け説明会（西宮）
• MN-166の進行型多発性硬化症を適応とするフェーズ2b臨床治験の患者登録完了を発表	5月	• 「賃貸住宅フェア」内株式投資フェア（福岡） 
• MN-166のクラッベ病治療適応に対するFDAのオーファンドラッグ指定を発表 • MN-166の進行型多発性硬化症を適応とするフェーズ2b臨床治験における255名の登録患者の無作為化完了を発表	6月	
• MN-166のアルコール依存症を適応とするフェーズ2a臨床治験の患者登録完了を発表 • MN-001のIPFを適応とする開発プランの進捗を発表 • MN-001の高中性脂肪血症を伴うNASH患者を対象とするフェーズ2臨床治験プロトコルに対するFDAの承認通知受領を発表	7月	• IRBANK主催個人投資家投資説明会（大阪） • SMBC日興証券大阪支店個人投資家向け説明会（御堂筋本町） • IRBANK主催個人投資家投資説明会（京都） • 第2四半期決算説明会（東京）
• 米国における米国発行登録制度に基づいた新株発行に関するお知らせ	8月	• 日本経済新聞社主催日経IRフェア2015出展・セミナー（東京）
• MN-166のALSを適応とする臨床治験においてNIV（非侵襲的換気補助器）のサポートを受ける進行ALS患者を対象とする修正プロトコルにおける患者登録開始を発表 • MN-001のIPF適応に対するFDAのファストトラック指定承認を発表	9月	• 大和証券鳥取支店個人投資家向け説明会（鳥取） • 日本証券新聞社主催会社説明会（名古屋）

MANAGEMENT TEAM
経営陣

執行役

岩城 裕一
代表取締役社長兼CEO（最高経営責任者）

ピッツバーグ大学教授、南カリフォルニア大学教授歴任、ジャフコ、日本政策投資銀行顧問

岡島 正恒
東京事務所代表、副社長

大和証券SMBC、住友キャピタル証券、住友銀行

松田 和子
CMO（最高医学責任者）

小児科医師、南カリフォルニア大学keckメディカルスクール助教授

ジェフリー・オブライアン
管理部門担当、副社長

UBS, DLJ/クレディ・スイス・ファースト・ボストン、野村、パンク・ズィーガルの株式アナリスト

エスター・ヴァン・デン・ブーム
CFO（最高財務責任者）

公認会計士
ユニバール・ライフ・リソース社マネージャー、アーンスト&ヤングLLPシニア・マネージャー

取締役

ジェフ・ヒマワン
取締役会長

エセックス・ウッドランズ・ヘルス・ベンチャーズ社
マネージング・ディレクター

小林 温
取締役

セガサミーホールディングス顧問、参議院議員（経済産業大臣政務官、参議院自由民主党政策審議会副会長）

石坂 芳男
取締役

トヨタ自動車顧問

岩城 裕一
取締役

上記参照

委員会

監査委員会（構成員数：3名）

構成員

石坂 芳男（委員長）
ジェフ・ヒマワン
小林 温

報酬委員会（構成員数：3名）

構成員

ジェフ・ヒマワン（委員長）
小林 温
石坂 芳男

指名・企業統括委員会（構成員数：3名）

構成員

小林 温（委員長）
ジェフ・ヒマワン
石坂 芳男

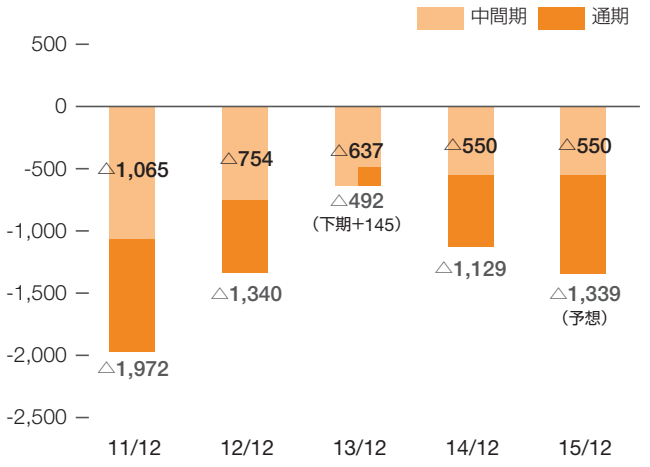
FINANCIAL HIGHLIGHTS
財務ハイライト

営業損失、純損失ともに前下期とほぼ同水準の着地
2015年3月13日発表の業績予想に対して共に約15%の減少

当上期の決算は、営業損失、純損失がともに前期に比べ約0.3億円の減少と、前下期とほぼ同水準の着地となりました。一方、3月13日発表の業績予想比では営業損失、純損失とも約15%（約1億円）減少していますが、これは予定より臨床治験関連費用発生のタイミングが遅れていることによるもので、今のところ通期業績予想に変更の予定はありません。

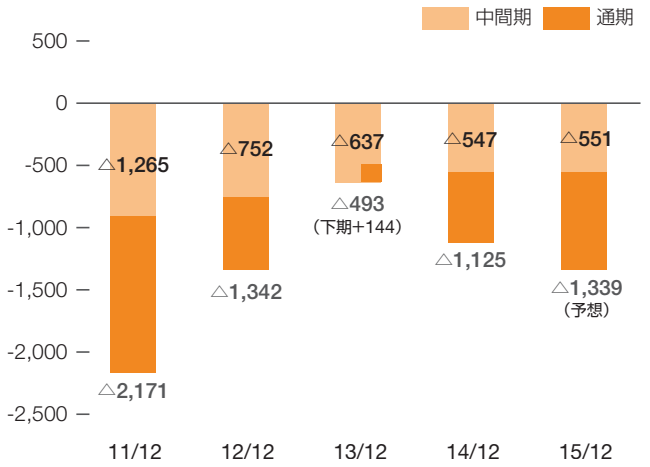
営業利益

（百万円）



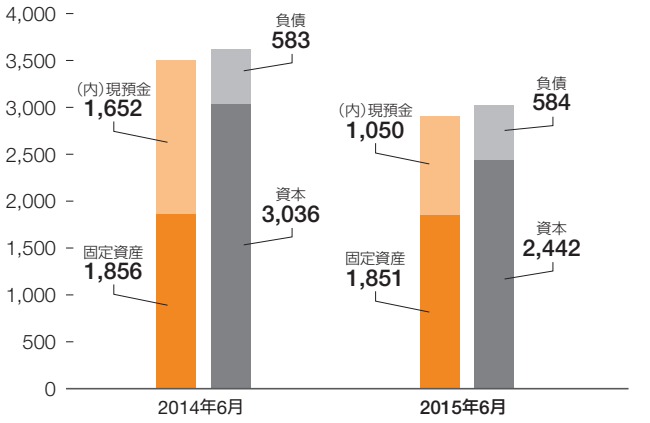
当期純利益

（百万円）



資産の内訳

（百万円/単位未満切捨て）



（百万円/単位未満切捨て）

	2014年6月	2015年6月	増減
現金及び現金同等物（百万円）	1,652	**1,050**	△602
資本合計（百万円）	3,036	**2,442**	△594
1株当たり純資産（円）	126	**98**	△28
1株当たり現金及び現金同等物（円）	69	**42**	△27
	2014年6月30日時点	**2015年6月30日時点**	
JASDAQ市場時価総額（百万円）	5,167	**12,148**	+6,981

注）メディシノバは米国企業で実際の決算は米ドルベースで行われておりますが、便宜上、三菱東京UFJ銀行の2015年6月30日現在の対顧客電信直物相場から算出した仲値1ドル=122.45円にて円換算しております。

CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS
財務諸表

貸借対照表

（百万円/単位未満切捨て）

科目	前期末（2014年12月）	当中間期（2015年6月）	増減額
資産の部			
流動資産	1,485	**1,175**	△309
固定資産	1,853	**1,851**	△2
資産合計	3,339	**3,026**	△312
負債の部			
流動負債	195	**135**	△59
固定負債	449	**449**	—
負債合計	644	**584**	△59
純資産の部			
株主資本	2,695	**2,442**	△252
資本金	2	**2**	—
資本剰余金	40,735	**41,033**	+298
累積欠損	△38,030	**△38,582**	△551
自己株式	—	—	—
その他の包括損失累計額	△12	**△12**	—
純資産合計	2,695	**2,442**	△252
負債及び純資産合計	3,339	**3,026**	△312

CHECK POINT
2015年6月30日現在の現金及び現金同等物は約10.5億円と、前期末比で約3.8億円の減少ですが、2016年3月31日までの運転資金を十分にカバーしています。

CHECK POINT
新株購入契約による新株発行(0.23百万株)により約0.8億円、ワラントの行使等により約0.8億円、合わせて約1.7億円のキャッシュ・イン、営業活動により約5.5億円のキャッシュ・アウトを相殺し、現金及び現金同等物が約3.8億円減少。前払費用等が約0.7億円増加しました。

CHECK POINT
負債合計は前期末比で約0.6億円減少しましたが、有利子負債は引き続きゼロです。

CHECK POINT
累積欠損が約5.5億円増加する一方、新株購入契約の実施やワラントの行使等により2015年上期中に合計0.46百万株の普通株を発行し、資本剰余金が約2.9億円増加しました。

損益計算書

（百万円/単位未満切捨て）

科目	前下期（2014年7月～2014年12月）	当上期（2015年1月～2015年6月）	増減額
売上高（営業収益）	—	—	—
営業費用	578	**550**	△28
営業利益	△578	**△550**	△28
営業外収益	1	**1**	0
税金等調整前当期純利益	578	**550**	△28
普通株主に帰属する当期純利益	578	**551**	△27
当期純利益	△578	**△551**	27

CHECK POINT
研究開発費は約1.8億円と前期比で約0.2億円の減少、一般管理費は約3.6億円と前期比で約0.1億円の減少と、ともに前年下期とほぼ同水準の実績となりました。

キャッシュ・フロー計算書

（百万円/単位未満切捨て）

科目	前下期（2014年7月～2014年12月）	当上期（2015年1月～2015年6月）
営業活動によるキャッシュ・フロー	321	**546**
投資活動によるキャッシュ・フロー	—	**—**
財務活動によるキャッシュ・フロー	98	**168**
現金及び現金同等物の増減	223	**△378**
現金及び現金同等物の期首残高	1,652	**1,428**
現金及び現金同等物の期末残高	1,428	**1,050**

注）米国会計基準に準拠した財務諸表の科目を一部変更しております。
三菱東京UFJ銀行の2015年6月30日現在の対顧客電信直物相場から算出した仲値1ドル=122.45円にて円換算しております。

株主メモ

- **証券コード**：JASDAQスタンダード 4875
- **決算期**：12月31日
- **売買単位**：100株（JASDAQスタンダード）
- **株式事務取扱機関**：
  東京都千代田区丸の内1丁目4番1号　三井住友信託銀行株式会社
- **事務取扱場所**：
  東京都杉並区和泉2丁目8番4号　三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
- **株主名簿管理人**：
  American Stock Transfer & Trust Company
  （アメリカン・ストック・トランスファー・アンド・トラスト・カンパニー）
  6201 15th Ave. Brooklyn, NY 11219, USA

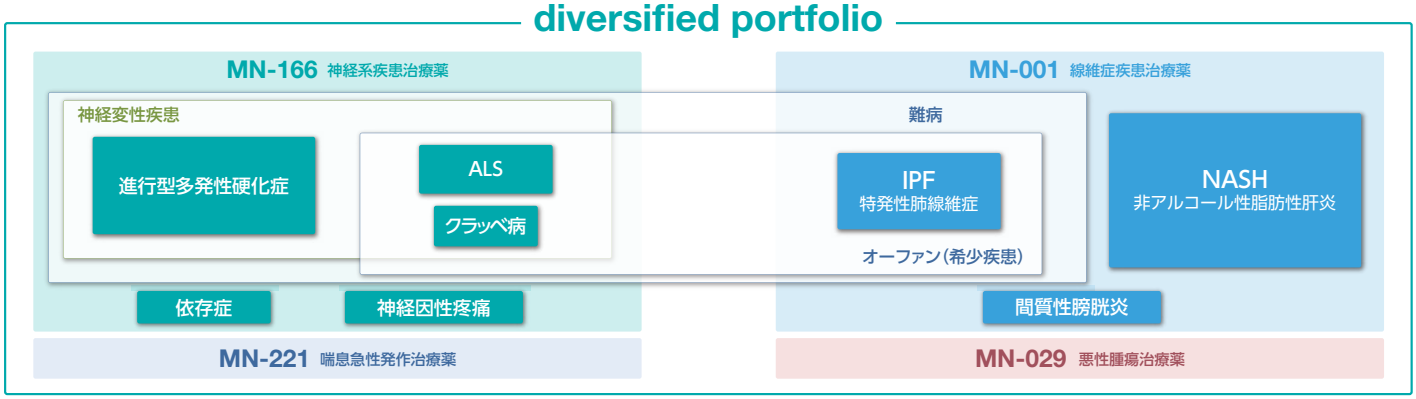
PORTFOLIO
開発ポートフォリオ

主要パイプライン

	コアプログラム/インディケーション	パートナー/助成金	前臨床	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
MN-166 経口 抗炎症 / 神経保護作用						
神経変性疾患	進行型多発性硬化症	国立神経疾患脳卒中研究所(NINDS)・NeuroNEXT、クリーブランド・クリニック／NeuroNEXT				
神経変性疾患	ALS(筋萎縮性側索硬化症)	カロライナ・ヘルスケアシステム神経科学研究所 神経筋・ALS・MDAセンター				
神経変性疾患	クラッベ病		オーファンドラッグ指定			
薬物依存症・嗜好品	メタンフェタミン(覚醒剤)依存症	UCLA／国立薬物濫用研究所(NIDA)	ファストトラック指定			
薬物依存症・嗜好品	オピオイド(ヘロイン、処方鎮痛剤)依存症	コロンビア大学／国立薬物濫用研究所(NIDA)				
薬物依存症・嗜好品	アルコール依存症	UCLA／アルコール濫用・アルコール依存症研究所(NIAAA)				
MN-001 経口 抗炎症 / 抗線維化						
	NASH(非アルコール性脂肪性肝炎)		ファストトラック指定			
	IPF(特発性肺線維症)	ペンシルバニア州立大学	ファストトラック指定・オーファンドラッグ指定			

＊ ⋯ 準備中

新薬開発領域(アンメットメディカルニーズ)



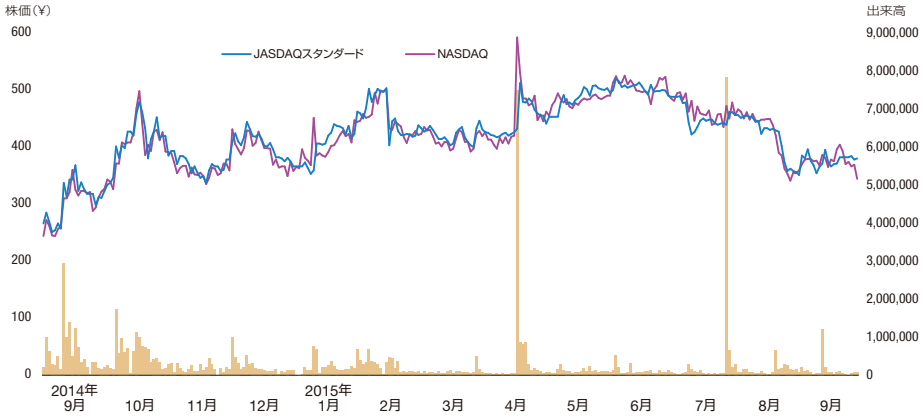
STOCK INFORMATION
株式の状況

授権株式総数	103,000,000株 (2015年9月30日現在)
発行済普通株式の総数	29,942,921株 (2015年9月30日現在)
純資産	24億42百万円 (2015年6月30日現在)
株主数	8,425名 (2015年4月17日現在)

[大株主](2015年4月17日現在)

株主名	所有株式数(株)	発行済株式数に対する所有株式数の割合(%)
里見 治	1,467,000	5.9
エセックス・ウッドランド・ヘルス・ベンチャーズ・ファンド VI・エルピー	1,170,370	4.7
キッセイ薬品工業株式会社	800,000	3.2
イワキ・ファミリー	738,778	3.0
植村 為久	528,200	2.1

JASDAQ証券コード　4875
NASDAQティッカー　MNOV



MEDICINOVA

メディシノバ 東京事務所
〒105-0003 東京都港区西新橋1-11-5 新橋中央ビル5F
TEL:03-3519-5010 FAX:03-3593-2721
www.medicinova.jp